

第 25 回 小豆島町総合教育会議

【日時・場所】

- 開催日時 令和 5 年 3 月 14 日（火） 午後 1 時 27 分～午後 2 時 00 分
- 開催場所 役場本館 3 階 大会議室
- 出席者 大江町長、坂東教育長、真砂委員、大石委員、照下委員、中川委員
- 同席者 **【町職員】**
谷本副町長、山口総務課長、古郷こども教育課長、出水こども教育課主幹、
小野こども教育課課長補佐、森生涯学習課長
【教育関係者】
大山小豆島中学校校長、平野池田小学校校長、林星城小学校校長、伊丹安田
小学校校長、大山苗羽小学校校長、中本こどもセンターセンター長、入倉星
城・安田・苗羽幼稚園園長、三好旭・福田幼稚園園長、進藤池田保育所所長、
山口内海保育所所長、慈氏せいけんじこども園園長
- 傍聴者 7 名
- 事務局 3 名

【内 容】

【山口課長】

ご案内の時刻より少し早いですが、ただいまから小豆島町総合教育会議を開催します。議事までの進行を務めます、参事兼総務課長の山口です。よろしくお願ひします。

総合教育会議については、本日が 25 回目の開催となります。会議は構成員であります町長、教育長、教育委員の 6 名で行うこととしております。

それでは、小豆島町総合教育会議規則第 4 条第 1 項の規定により、総合教育会議は町長が招集し、議長となりますことから、この後の議事進行については、大江町長にお願ひをいたします。

【大江町長】

皆さんこんにちは。お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。

小学校の統合問題を中心に今やっておるわけでございますけれども、それに関連して、教育大綱も議論していくということで、今日は教育大綱の議論をさせていただけたらと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは議題の教育大綱について事務局の方から説明をお願いします。

【出水主幹】

こども教育課の出水でございます。よろしくお願ひいたします。座って説明させていた

だきます。

現在の大綱は令和3年度までとなっており、次の大綱の期間は令和4年度から令和8年度までの5年間としています。

見直しにあっては令和4年3月に改定された香川県教育大綱を参考にし、現大綱の町教育目標である『ふるさとを愛し、人間性豊かで、たくましく未来に生きる人づくり』を継承したものといたしております。

大きく変更した箇所についてご説明いたします。

2ページをお開きください。上段表中、小学校の教育のあり方として①に自分の意志で判断できること、子ども同士協力し合ったり、話し合ってもらいたいということで「主体的・対話的で深い」を追加、中学校の②に「夢をもち、それに向かって努力する」を追加しました。

3ページ3安全で安心できる学校づくりとして、登下校の安全や災害に対する防災意識、コロナウイルス感染症の対応などを記載しました。(1)学校施設等の整備、充実の四角内2段落目に、今年度の総合教育会議でご議論いただきましたとおり、内海地区の3小学校を統合する方向で進めるとしております。

これからの学校運営体制としては、4ページのエココミュニティ・スクールを各小学校・中学校に設置「地域とともにある学校」を目指し、オ 地域学校協働本部を教育委員会内に設置「学校を核とした地域づくり」を目指すとしております。

5ページオに教職員の長時間労働が問題となっているため、働き方改革、業務改善について記載し教員の健康管理に努めるとしました。

6ページ下段から7ページにかけて、令和2年度に一人一台端末と高速大容量の通信ネットワークを各学校に整備し、ICTを用いた学習を充実させ、情報通信教育を推進するとしております。

8ページ⑤に読書の項目を追加、読書は、あらゆる学習の基盤となることから子どもたちの発達に応じて本を読む習慣を身に付けてもらいたいと思います。

14ページ、池田小学校横に開校する「みんなの支援学校」について、小豆島の特別支援教育の拠点として、また郡内の学校との交流、共同学習など連携を推進するとしております。③中学校の部活動については、段階的に地域移行を進めてまいります。

15ページ、給食については今年度から実施している給食無償化について記載しました。

19ページ、清見寺が運営する私立認定こども園や小豆島中央病院内にある事業所内保育所と就学に向けた連携を強化するとしております。

20ページに「社会体育施設等のあり方方針」に基づき、適切な配置やあり方について検討していきます。

21ページに「地域の宝物」の保存と活用として、「小豆島町文化財保存活用地域計画」(令和4年度策定)に基づき、町内の各種団体と連携しながら、文化財・商工・観光・産業・教育・地域づくり等の各分野における保存・活用を促進していきます。

23ページに「こどもの夢応援プロジェクト事業」として、子どもたちが第一線で活躍するスポーツ選手や芸術家、作家等との体験活動を通じて将来への夢を持つきっかけづくりとなることを目指します。

以上で説明を終わります。

[大江町長]

非常に駆け足で申しわけなかったような感じがします。

教育委員さんについては、事前にお渡ししているそうなので、もし何かご指摘の点ありましたら、お願いいたします。何か気になる点はございませんか。

それでは、真砂委員、お願いします。

[真砂委員]

最初に思ったのは、2 ページなんですけど、教育目標には「ふるさとを愛し」というのが一番に言葉に出ているんですけど、この教育、学校教育のあり方を見ると、小学校の「地域を愛する心の育成」でしか触れてないので、もう少し、目標とするのであれば、また町として、そういう地域のことをしっかりして、また帰って来て、いろいろなことをしてもらいたいという願いがあるのであれば、小学校だけ入るのでなくて他のところにも、入る方がいいのではないかと。

それから、地域学校協働本部ができて、今までと違って地域が学習について、もっと積極的に、町の方も関わっていく。学校だけが応援する、支援するだけじゃなくて、やっぱり責任も分担するという趣旨の、この協働本部というのがあるわけですから、そういうことから考えて、教育のあり方のところに、町として、入れる方がいいんじゃないかなあと、思いました。県との兼ね合わせもあるとは思いますが、そういうふうにはまず一つ思いました。

[大江町長]

ありがとうございます。大石委員、いかがでしょう。

[大石委員]

最初に読んで、学習指導要領をもとにした非常にバランスのとれた大綱だと思いました。1 点、せっかく小豆島町世界の持続可能な観光のトップ 100 に選ばれてるSDGsについて。これは本来教育全体でやるべきものなんですけど、一番子どもが関わりやすい環境教育のところを取り上げて、その視点でというのはどうか、というようなことを一つ提案したいと思う。SDGsの視点でというようなところを加えたらどうか。というようなことを感じました。

[大江町長]

中川委員は、いかがでしょうか。

[中川委員]

大綱を見て特に気になるところはないかなとは思いますが、やっぱり小豆島の学校ということで、この小豆島には自然やとてもいいところがたくさんあると思います。

また、伝統文化、産業観光という素晴らしいものを使って、小さな頃から小豆島のことを知って、体験したり学んだりして、将来、小豆島に残りたい、帰っていきたいという子どもたちが増えるような、そういったことをやっていけたらなと思います。幼・保、小、中、一貫教育を目指してやっていくということで、大変いいことだなと思います。以上で

す。

[大江町長]

照下委員は、いかがでしょう。

[照下委員]

はい。教育目標といたしまして、ふるさとを愛し、人間性豊かでたくましい未来に生きる人づくりを掲げておりますが、これは非常にいいなと思っております。それにですね、1 ページ目の中学校のところなんです、一番の発達段階を考慮した学校教育のあり方の中学校のところなんです、2 番の「夢をもち、それに向かって努力する」というところがありますが、果たして中学生。夢を、持っているのだろうかとか、もっとその夢を持つて教育をしていただいているのだろうかというのがちょっと心配になってきますが、もっとそれに、力を入れていっていただきたいなと思っております。

[大江町長]

教育長は、いかがでしょう。

[坂東教育長]

私の方は事前に事務局と協議しており、この大綱について意見を聞きたいという立場なんで、この場で言うことはあまりないんですが、ちょっと気になった点が、2 ページの学校教育のあり方で、中学校に①の「文武両道に努め」を今回足してるんですけど、文武両道を今の時代に改めて追加する必要があるのかが、修正後にちょっと気になった点です。これについては意見をお聞きしたいと思っております。

それと②の「夢を持ち、それに向かって努力する」というのが、他の項目と表現が違いますので、ちょっと努力するで終わったら、表現がここだけ合わないなという感じがします。修正したいと思っております。

同じ 2 ページの (2) の「コミュニケーション教育等の推進」で、①でコミュニケーション、②で英語教育、③でふるさと教育とあるんですが、コミュニケーション教育等で代表するんじゃないかと、ここは特色ある教育の推進とかいうことで、①②③があったほうがいいのかあというか、これ作成した後で気が付いた点です。私からは以上です。

[大江町長]

今各委員からいろいろご意見が出たんですけど、他の委員さんのご意見に対して何かご意見がありましたら。

[真砂委員]

中川委員さんから意見が出た一貫教育っていう、とてもいい言葉なんですけれど、実際のところ一貫教育で、何をこう目指しているのか、一貫教育したから何か良くなるのか、そういう何か、先生も小学校、中学校、高校、異動があって中学校や高校もあるとか、そういうのはちょっと無理でしょうけど、そういう共同学習だったら一貫して何かできる。

それからもう一つ、英語教育というのを 2、3 年前はすごく一貫してという状況だった

んですけど、カリキュラム的に一貫したからこういうふうになって、英語教育がどうのこうのというような状況になったらいいのになと思うんですけど、そういう取り組みってどうか、他の市町村の英語教育と何が違うのか、一貫教育となっているけど、何か特徴があるのかと考えてみると、そんなに変わらない土庄町と何が変わりあるのかとか、そういう土庄町だけじゃないんですけど他とも、例えば直島だったら英語教育で割と積み上げてきて、いろいろなものもあるんですけど、そういうものも、小豆島町にあるのかなあと、そういう意味で、その一貫教育というので、何を指すのか、保護者や地域の人にも一貫教育っていいなと、小豆島町だからそういうことができているなという、そういう地域の人や保護者にも応援してもらえるような、一貫教育をもう少し学校も含めていろんなところで議論して、一貫教育と上げるんでしたらしていけないといけないなと、思いました。以上です。

[大江町長]

大石委員からSDGsのご提案をいただいて、私も確かに教育大綱の中に抜けてるなという気がしています。それについてはもう、当然織り込んでいくべきだと思っておりますけれども、他の委員の皆さんのご意見に対してどう思われますか。

[大石委員]

先ほどから一貫教育のお話が出てますけど、私はここの文面とは別に、この小豆島の特色というのは、小豆島中央高校の校区は割と限られているというのは、香川県の中でもう、大きな特色じゃないかなというふうな気がいたしております。

もちろん県外からどんどんと留学生というか、ちょっとこれ来てもらって、そして島の子たちに刺激を与えてもらって、島の子たちが伸びていくんですけども、他の地域に比べて、割と高校との連携がしやすい地域ではあると思うので、その文面にどう表すかは別として、小中高の、連携というようなところは大切なところだなあと、もちろんここは町との連携ということが入ってくるんですが、そういうふうなことを考えております。ちょっと抽象的な話になりました。

[大江町長]

ご承知のように小豆島中央高校がありまして、高校に寮が36室あるので、島外から生徒さんが入ってこられているんですけども、逆に島の方から、島外に進学する生徒さんが非常に増えてまして、ご承知かと思っておりますけど、小豆島中央高校の普通科が大きく定員割れしているような状況で、何かこうやっぱり島ならではの、ここ行きたいなと思えるような学校づくりが、やはり小中高それぞれに求められてる時代かなという気はしておりますので、今言った小中高との連携とか、地域との連携、また市町村の連携、こういった話も貴重なご意見として、ぜひ何らかの形で反映させたらなというふうに思います。

次に、中川委員、何かございますか。

[中川委員]

特にはないんですけど、今町長さんも言われたように、実際、中学校出るときに、外へ出てしまうっていうのに苦慮しておられるので、おっしゃられたとおり、何か魅力のある

学校づくり、小中も一緒なんですけど、やっぱり小豆島も外からとにかく来たいって言われる、学校にしていけたらなと思います。

[大江町長]

実際に結構外から移住されてこられる方っていうのは、教育に関心が非常に高くですね、一旦わが町に移住してこられたんですけども、別の地域のこういった学校に行かせたいというご希望で我が町から出て行かれたという例もあります。

ぜひ我々は、その外から来てもらえるような魅力的な学校をこの際、作っていかねばならないな、というふうに思っておりますので、単に3つの学校が1つになったいう学校ではなくてですね、教育的にもまとまったというか、他の地区に比べても面白いなというような教育も必要かなというふうには思っております。

照下さん、何かありますか。

[照下委員]

特にないんですが、町長が言われたように、魅力的な学校づくりを作っていたきたいなと思っております。ただ単にずっと高校までいけるっていう感じで、何かぬるま湯につかっている状態ではなくて、素晴らしい学校に行けるんだっていう、教育をしていただきたいなと思っております。

[大江町長]

教育長、何かありますか。

[坂東教育長]

真砂委員から幼保小中高で一貫教育についてご意見があったんですけど、現実的には一貫というより、どちらかという連携は十分とれていると思うので、連携教育のような感じになっているというのが現実だと思います。

そういう意味でいうと特色ある教育の中で、英語教育とか後で4ページの方で外国語教育の充実、ちょっと英語と外国語は言葉が違うんですが、これがある中でこれについては例えば、ある程度一定の方針に基づいて一貫教育が可能かなと思っております。

それで、ここを英語教育の推進では、さらっと流しているんですけど、内海地区の小学校の統合については、その学校の教育方針とか今後決めていくんですけども、その中でも小学校をどうするべきかという中で、この教育大綱にも通じるところで、池田小学校、小豆島中学校も含めて、特色あるということであれば、やはり今の中学校とかの学力面とか、その辺り見たら、やっぱり一番力を入れるのは、英語教育かなあというふうには感じてますので、できれば町長部局とも相談しながらある程度その予算の見込みを立てて、もう少し英語教育に突っ込んだ具体的な表現にしたいなと考えてます。以上です。

[大江町長]

いろいろ貴重なご意見いただきましてありがとうございます。

実は先だって県の教育長さんにお会いしまして、「今度3つの小学校を統合します」と

いうお話をして、統合にあたっては、単に3つの小学校を1つにしたというのではなくて、他の地域から来てもらえるような魅力ある学校づくりをしたいと、それについては当然、先生は県職ですから、県から先生を派遣してもらわなければなりませんので、ぜひそういったマインドを持った先生を派遣してくださいというお話をして参りました。

それで、どういった学校にするかということについては、県の義務教育課と小豆島町で来年度に協議会を立ち上げて、新しい統合小学校をどういった学校にするかという話し合いをしましょう、ということになりまして、来年度から小豆島町と県とで話し合いをすることになりました。またその結果も随時、この会議で報告させていただきながら、ぜひ魅力的な学校にしたいというふうに思っております。

今、候補地が2つですよね。小豆島高校跡地と現在の中学校ということで、小豆島高校跡地については4ha弱あるんですけども、要は災害の心配がない土地で、しかも4ha近い土地を小豆島町で今後確保する目途は当然ないわけで、高校跡地をぜひ活用したいということで、今、県の財産経営課ってところが管轄してるんですけども、そこにどの程度でお譲りいただけるのかという話を持ちかけて、今、折衝しております。当然その値段にもよります。ぜひゆくゆくは学校用地としては、もう最適な場所にありますし、そういったことで、今現在折衝しております。

そこを今回の統合用地にするかどうか。今後、皆さんの意見聞きながら、決めたいと思いますけれども、たちまち用地を押しさえたいというふうに思っております。

それで、今回いろいろご意見ちょうだいした中で、幾つかもうぜひと思うようなこともありましたけれども、事務局の方では、いただいた意見に対して、どういったスケジュールで変えていくとか、そういったのがありますか。

[出水主幹]

今後のスケジュールといたしましては、今回ご議論いただきましたもの、校舎所長会からもいろいろ意見をいただいておりますので、3月中に第2稿を作成いたしまして、手直しの確認を3月27日に開催の教育委員会で、お披露目というか、そこでもう一度教育委員さんの方々には見ていただけたらなと考えております。これをそこで一度ご了承いただけましたら、パブリックコメントをいたしまして、1カ月間ほど住民の方々からもご意見をちょうだいしたいと考えております。住民様からいただいた意見をまとめまして、次回の総合教育会議に諮って参りたいと考えております。以上です。

[大江町長]

今事務局から今後の進め方について説明がありましたけれども、何かこう、ここはこうしたらいいんじゃないかみたいなお話がありますでしょうか。今のスケジュール感で大丈夫ですかね。要は今回意見をお聞きして、それを盛り込んだ形で、今月下旬の教育委員会で、一旦教育委員の皆さんにはお示しするということですね。そのあと、校舎所長会の意見も盛り込んでいく。そのあとパブリックコメント等を経て、総合教育会議で最終的に決めるという形になりますけれども、それでよろしいですか。

はい。それではですね一応全員の方に意見を伺ったんですけども、そのあと特に何かお気づきの点がありましたら。

特段ございませんか。はい。ありがとうございます。

それでは、本日いただいた意見と校園所長会からの意見を盛り込んだ形で、次回、教育委員会で、ご提案させていただくということで進めさせていただきたいと思います。
本日はどうもありがとうございました。